

〔タイトル〕

宮崎大学の卒後臨床研修にみる自由選択研修の多様性

Title: Variety of training during non-required courses in post-graduate clinical training program of Miyazaki University

〔発表者・所属〕

小松弘幸^{1,2}、有村保次¹、鷹取あき¹、林 克裕²、岡山昭彦¹

1.宮崎大学医学部医学部附属病院 卒後臨床研修センター

2.宮崎大学医学部 医学教育改革推進センター

〔抄録〕

【背景・目的】宮崎大学医学部附属病院の卒後臨床研修プログラムでは、研修 2 年次に 6 ヶ月の自由選択研修期間を設けている。2010 年度からの研修制度見直しでプログラムの弾力化案が示される中、本院研修プログラムがこれまで提供してきた自由選択研修がどのように実施されてきたかを後ろ向きに検討した。

【方法】対象は 2004 ~ 2008 年度に本院プログラムで研修を開始し、研修を修了または 2 年次研修先が確定した 148 名 (男性 93 名)。2 年次研修先選択の意思決定は 1 年次の 11 ~ 12 月に行わせた。研修先は大学内の全診療科および 24 協力型病院、12 協力型施設から自由に選択させ、1 か月を最小単位として 6 ヶ月間に 1 ~ 6 診療科の選択ができるようにした。また、2005 年度研修医より、自由選択研修先の一つに限り、一定の条件の下で研修先の変更を可能とした。

【結果】研修医 1 人あたりが選択 6 ヶ月間に研修した平均診療科数は 2004 年度の 1.9 から 2008 年度には 3.1 と経年的に増加した。また、6 ヶ月間を 1 診療科で研修した研修医は 2004 年度には 8 名いたが、2008 年度には 1 名もいなかった。診療科は内科 (22%)、麻酔科 (15%)、外科 (7%)、ICU (7%) などの基本研修領域が多かったが、他の非必修領域も 1 ~ 6% の範囲で全領域にわたり幅広く選択されていた。2005 ~ 2007 年度の研修医 75 名のうち 22 名 (29%) が当初希望していた研修先を変更したが、将来の専攻領域を早めに開始したいという変更理由は 8 名 (36%) に留まった。

【結論】本院研修医の自由選択研修は非常に多様性に富み、必ずしも将来の進路を前提とした研修だけではなく、幅広い医学領域を経験したいという傾向が見られる。